

第2回米沢市立学校適正規模・適正配置等検討委員会 議事録

日 時 平成29年8月18日(金) 14:00~16:00

場 所 置賜総合文化センター 教育委員室

出席者 1号委員 尾形 健明委員、鈴木 一憲委員
2号委員 土屋 宏委員、岩倉 由美委員、山口 周治委員
3号委員 情野 彰浩委員、大町 竜哉委員、遠藤 貴裕委員
4号委員 涌井 且一委員、板垣 正明委員、
玄番 京子委員、安部 友二委員

米沢市教育委員会

教育長 大河原 真樹、教育管理部長 菅野 紀生、
教育総務課長 我妻 祐一、課長補佐 小田 浩昭、
副主幹兼施設主査 庄司 哲朗
教育指導部長 佐藤 哲、学校教育課長 山口 博、
課長補佐 片桐茂、課長補佐 木村 智子、
学校財務主査 笹原 恵、学事主査 佐藤 多恵子、
嘱託職員 鈴木愛子

(進行) 学校教育課長補佐 片桐 茂

資 料 次第、第1回米沢市立学校適正規模・適正配置等検討委員会議事録、
資料1 第1回検討委員会での小中一貫教育についての意見のまとめ
資料2 本市における小中一貫教育について(案)
資料3 平成29年度改訂米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画(案)
資料4 適正規模・適正配置等基本計画改訂に係る現状分析
平成25年度米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画

議 事

- 1 学校教育課長補佐より、委員会成立宣言がされる。
- 2 委員長 挨拶。
- 3 議長選出 委員長の尾形健明氏。
- 4 協議

(1) 第1回検討委員会の議事録の確認

教育指導部長 議事録を事前に送っているが、訂正等あれば訂正したい。

委員長 何かあれば申し出てほしい。

特になし。

(2) 事務局からの説明

①本市における小中一貫教育について

教育指導部長 資料については議会に示す資料となる。資料 1、資料 2 について説明する。

資料 1「第 1 回検討委員会での小中一貫教育についての意見のまとめ」は、第 1 回適正規模・適正配置等検討委員会が出された意見をまとめたものになる。これについては、資料 2「本市における小中一貫教育について(案)」、資料 3「平成 29 年度改訂米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画(案)」に盛り込むわけだが、年度末に答申(案)をまとめる際に活用するため、項目ごとに整理してまとめた。他に盛り込む項目があれば出していただき、検討していきたい。

資料 2「本市における小中一貫教育について(案)」は、第 1 回適正規模・適正配置等検討委員会での資料をまとめ、協議をもとに本市としての考えを記載したものになる。資料の最初に、小中一貫教育の定義といったところを示すため、あらためて 1 小中一貫教育について を記載した。

2 本市の学校の状況については、中学校区における、小中連携の状況を示した。「小中一貫教育」は、小・中学校が同じ校舎でというイメージだが、本市では難しい状況にある。4 本市における小中一貫教育の導入についてでは、今回、(4)現時点での本市における小中一貫教育の導入の方向性の項目が追加された。導入には、中学校区の見直しを計り、推進計画をたて、本市ならではの小中一貫教育を中長期的に取り組んでいかなければならない。

このほかに、盛り込まなければならない項目があれば意見を出していただき、年度末に方針を出したい。

委員長 小中一貫教育はやらざるを得ない、米沢市ならではの小中一貫教育をやっていくという前提のもとに、意見を出していただきたい。

委員 前回の議事録を見させていただいた。議会に報告され、検討され予算がついて小中一貫教育の実施の運びとなると考えてよいか。

教育指導部長 本市で取り組めることを協議しながら、小中一貫教育の方針を示していくという段階だ。

委員長 諮問されているので答申をするということだ。

委員 方針として示すものは、実現出来る具体的なものだといえると思う。

委員 市教委から、小中一貫教育でやっていくと出されたので話しやすくなった。全体的に見て、学区の見直しが大きいところだと思う。市教委でこうしたいと言って成るものなのか。地元との調整は市教委だけの意見では難しいだろう。他の部局との調整も必要だと思う。具体的に整理しておかないともめると思う。

小中一貫教育の導入については、連携型で手掛けられるところからでいいと思うが、学区まで出すとなるとまとめられるか不安もある。

委員 前回示された学区を 4 つにするという計画との関わりはどのようなのか。

教育指導部長 中学校の適正規模・適正配置（統合）のときに連動させて実施するのがよいと思う。区域割についても計画の中に示したいと思う。

委員長 他に発言はないか。一小一中だと小中一貫教育はやりやすくなる。

委員 市教委のイメージとして、学年の組み合わせなど各学校に任せるのか、市で統一してやるのか、どういうイメージをもっているのか。

教育指導部長 基本は、6-3 年制でやっていく。

委員長 他になければ、この方向ですすめていく。

②米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画の改訂について

教育指導部長 資料 3 の説明。平成 29 年度改訂米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画について、具体的な配置計画についてはまだであるが、現段の計画策定に当たって、前段部分についてご審議いただきたい。資料 4 の説明。現状分析の数値をみながら率直なご意見をいただきたい。

委員長 意見はないか。

委員 H30 年から H40 年の 10 年間ですべての学校を建てるとのことか。

教育指導部長 そうではない。

委員 資料 4 で説明があった生徒数の減少に驚いている。出生数も、街をどのように維持していくのかということにつながるわけだが。東西南北に分けた時に、H41 年で 300 人台の学校が 2 つ出てくる。当初、400 ～500 人の学校を想定して適正規模・適正配置計画をすすめられていた。このとき、学校を建ててすぐに 300 人台、更に、300 人を割ってしまうような状況で、本当にそれを進めてよいのか。学校側でも、専門教科の授業、部活動の数等、プラスのイメージだったものがなかなかそうでなくなる。厳しい財政状況の中、建てて直ぐ見直しとならないよう検討した方がよいのではないか。

委員長 4 校ではなく 2 校か 3 校にして検討することも考えたほうがよいのではということですね。他に意見はないか。

委員 南原中・第二中の統合の話が期たとき、「児童数が減少してないところには雇用促進住宅等の住宅がある。南原にも公営住宅を建ててほしい。」という声があった。若い人達が住むような住宅を建てる計画が、市や民間でもあるか。そのことを適正規模・適正配置の検討に活かさないか。

委員長 米沢市まちづくり総合計画での最大の課題は人口減少対策だった。出生率を上げなければどうしようもない。米沢市もいろいろな対策をやっていると思う。情報をもっと市に届けるとよいと思う。他にないか。

委員 仮に 4 つの中学校をつくるとしても、一斉につくるわけではないと思うが、建て替えていく順番を織り込んで、途中見直しで変更可能にしておくというかたちもあるのではないか。この案だけだと、一斉にやるのかということになるが、それは難しい。途中見直しをしたときに、変更を可能とするような、タイムスケジュールのようなものを出せないか。見直しをやったときに人数が減っているところは、2 校ではなく 1 校になるかもしれないということを織り込めないか。織り込めないにしても、市教委側で持っておいて、議会の質問で答えられるデータがほしいのではないか。すごく難しいことだと思う。5 年前の推計よりも人口が減っているということをどのようにこの計画に入れていったらよいの

か。どこまで減るかは計りきれない。市教委だけでは決められないことが沢山あると思う。

委員 (仮称)南地区中は、建設するという考えなのか。

教育長 南地区に新しい中学校はつくる。「つくらなければならない。」という気持ちでいる。規模については悩むところだ。

委員 小学校区はそのままで、中学校区を見直すということは、この計画は、中学校の適正規模・適正配置等基本計画ということか。

教育指導部長 中学校の適正規模・適正配置等基本計画ということにはなるが、小学校についてもこのままでは小規模校ばかりになってしまうので今後の適正配置の方針等を示したい。

委員 小学校の区割りも変えるということか。

教育指導部長 小学校区は変えないで、統合のかたちで適正規模にもっていききたい。

委員長 小学校は、最低でも1学年1学級にもっていききたい。他に意見はないか。

委員 この先の予測ができれば、具体的なビジョンができると思う。こんなに減るとは考えなかった。この先5年10年のところを一定程度見据えることができるものが何かないだろうか。

委員長 このデータは実数か。

教育指導部長 実数である。生まれた子どもの人数からで、今後住宅地ができて増える可能性も考えられる。そこのところを予想することが可能なものが何かないかと思う。

学校教育課長補佐 かなり複雑な計算になる。資料4のP2、北地区の例で説明。就学の機会均等の観点から、現在の実人数のデータから推測するしかない。

委員 H25年のデータと比べて、実数で減っているということだが、な

ぜ減ったかについてわからないものだろうか。小さい子どもがいる人たちが米沢から出て行っているのであれば、減少は続くと思う。転出していく理由のデータを市民課あたりで調べることはできないか。米沢市まちづくり総合計画からも、子育て対策をとっていくことが実数確保につながると思う。

教育管理部長 人口の変動について、出生数の減少に加え高齢者の死亡数の増加による自然減少に、就学のための社会減少も続いている。市として、就労の場を増やすことに力を入れている。子育て支援にも一定の手立てをとっている。以前、民間団体から「消滅可能性都市」が出され、県内で数少ない「消滅しない都市」に米沢市は残っているが、厳しい状況ではある。

委員 ジョギングで街中を走っているが、年々新しいアパートが増えている。南部地区は、アパートがすごく多いが、資料を見てみると他の地区より減少が大きく、若い人が住まないことが見て取れる。そのあたりも調査してみてもどうか。中学校の統廃合で、四中を壊すことを納得する人はいないと思う。建築年数で、古いからと誰もが思える建て直しがいいだろう。織物業界でも、事業者数が減っているが、取引業者の米沢織に対するイメージは崩れていない。残っている機屋さんは、後継者がいて個々の意識も高く、組合で情報交換等を行い生き残りに努めている。教育に関わる方も、全体で真摯に向き合う機会があったらいいと思う。今回健康課から、出産された方に米織りのバッグをプレゼントするというはなしをいただき納品している。年4回納品で600個予定していたが、2回目の納品時、半年で、200個まで捌けてなくて余ると言う。目の前に危機があると思った。

委員 この委員会では、先の見通しがつかなくても、5年後10年後の子どもたちがちゃんと育つように考え、決めなければいけないと思う。20年後がどうなっていくと、今いる子どもたちのことを考え進めなければいけないと思う。

教育指導部長 先送りできない課題だ。統廃合で、学校がなくなりさみしいところもあるが、統合することで、生徒の人数、先生の人数が増え、新しい友達に出会えたり、パソコンや図書など備品環境が充実していくなど、いろいろなよいことを発信していきたい。南原中と二中の統合の準備も進んでいるが、統合することで新しい学校がよかったと思っても

らえる計画づくりにしていきたい。

委員 高畠町で4校の中学校が1校になった経過、子どもの人数を含めた現在の見通し、南陽市や川西町の状況をお聞きしたい。

学校教育課長補佐 高畠町の場合は、町長が、1校にして学力もスポーツも向上させたいという強い思いがあった。全ての地域公民館約200カ所で説明会をして廻ったと聞いている。

委員 高畠町は今後学級数は減るのか。

教育長 減っていく。

委員 川西町の経過はわかるか。

教育総務課長 川西町の場合は、川西町教育委員会からの考えを受けて、町長が1校にすると判断したようだ。

委員長 川西町はその後児童数が減っているのか。減ることは止められないのか。米沢市も止められないのか。

委員 私は南地区に住んでいるが、子どもが減っているというが、山大学生がいて、いろいろと活動してくれているので減っている感じがしない。この学生たちが卒業後、米沢に残ってくれたらと思う。新しくできた学校が、そのときの子どもたちにとってより良いものであることがとても大事なことなのだと思う。資料で、小学校は6学級とあるが、勤務している学校は6学級ない。中学校区での適正規模・適正配置ということで、「小学校はまだなのだ。」と思った。

教育指導部長 H25年度の計画でも同じような表現をしている。H30年度からの複式学級がある学校の統廃合について代表者委員会で協議することが盛り込まれている。小学校の方も具体的にどうするか考えていきたい。

委員 六郷地区だが、六郷小は現在40人が何年か後には28人になってしまう。複式学級だと、先生が2学年教えるため、子どもに対して教える時間が少なくなる。小学校も統合は難しいと思うが、子どもにとって

は友達がたくさんいた方がいいと思う。南地区に、新しい中学校を建てることはいいと思うが、他の地区でまだ新しい学校をうまく使っていければいいと思う。これから減っていく子どもをどうやって減らなくするかが大事になると思う。

委員 愛宕地区だが、再編の時を経験している。地区が移ったのは、大変なことだったので、地区をのこしての統廃合による再編成はいいと思う。

委員長 他にないか。

委員 窪田小が児童数が増えているのは、便利だからと聞いた。子どもの進学で埼玉に行ったとき、子どもを抱いた若いお父さんをたくさん見かけた。米沢では、見たことがない。米沢にインターチェンジができる。米沢もベッドタウンになって、人口が減らなくなればと思う。

委員 米沢は、自尊感情が高い子どもが多いという調査結果が出ている。米沢の教育は、子どもたちにとって受けやすく、自信をもって生きていけるということだと思う。その辺を前面にだし、米沢はいいところだ、米沢で子育てしたいと思ってもらえるようなことを市教委で何かできないか。取り組みを成果的に盛り込んでもいいのではないか。また、連携教育をする場合の先生の負担に対する応援をどうするのか。人口減少を抑えるために、「より良い教育ができる街」にして、その応援として、先生方への支援、再任用を入れていけないか。先生方の意見をもっと入れればいいのではないか。

委員 米沢市を宣伝するということでは、県外の先生方から、「米沢のどこの学校に行っても、鷹山公、謙信公の写真が飾られているのはなぜか。」と言われる。歴史背景、教え等を説明するのだが、その教えを学んだ子どもが育つということが、米沢で子育てしたいということに繋がるキーワードになるのではないか。再任用のことで、織物業界には定年がない。退職した教員の中にも、お手本となる先生はいると思う。

委員 「学校の統廃合を検討し、すべての学校が適正規模となることをめざします。」とあるが、学級数の基準の緩和はできるのか。教員を志望する若者の状況はどうなのか。

教育長 教員を志望する大学生や講師の先生は年々減ってきている。小学校で本来は、志望数が 5 倍以上ないといい教員が採用できないが、昨年度は 3.1 倍、今年度は 2.6 倍だった。定年退職者はどんどん増えている。中学校は、志望数が 7 倍以上あるといいといわれているが、昨年度は 6.7 倍、今年度は 5.2 倍と、小学校、中学校ともに、減ってきている。1 学級の人数だが、山形県は「さんさんプラン」で国の基準より緩和されているのでこれ以上の緩和はない。

委員 先生が足りないのでは、4 校でなく 3 校となるのか。

委員 南地区が決まっています、四中があるとすると、あと 1 校どこにするかということか。

教育指導部長 次回までに具体的に 8 つの中学校を調整して統合に向け十分に煮詰めたものを示したい。

委員 書き表し方で、文科省の図、表やグラフが入っているが、少なく小さくして本当に必要なものだけを基本計画にのせることでよいのではないのか。

委員長 ロゴマークについて、H25 年度の適正規模・適正配置のマークだが、作成に携わった方はいらっしゃるか。

学校教育課長補佐 適正規模・適正配置の考え方が浸透していなかったため、ロゴマークを作った。

委員長 涙をながしているように見えたので、将来が明るくなるようなマークの方がいいのではないか。

委員 ピンクのハートにみどりの葉のように、カラーにすれば印象が変わる。

委員長 次回に具体的な案がでると思うので審議いただきたい。

教育指導部長 次回の開催日程は、11 月 1 日（水）の案でいる。再度確認して案内する。

5 その他 なし